

はやいもので、今年度も残りわずかとなりました。なにかと忙しい時期ですが、ちょっと一休みにご一読をどうぞ。今回は、県内のまちづくり事例紹介はお休みして、2月におこなわれましたまちづくり関係の行事について2つ紹介します。

## 大分まちづくりフォーラム（大分市）

平成18年8月に中心市街地活性化法が施行され、全国的にまちづくりの気運が高まる中、本県においても街なかの商店街に空き店舗が増加するなど衰退が深刻化しており、いかにしてまち中に“賑わい”を取り戻すかが重要な課題となっています。

今回は、本県におけるまちの賑わいを取り戻すための取り組みを支援するため、フォーラムを2月6日に開催しました。参加者は、商店街関係者や県、市町村職員等約150名。

講師は、内閣官房地域活性化伝道師である原田弘子さん。原田さんは、広島県呉市の専任タウンマネージャーとして、新たなまちづくりの担い手を発掘、支援を行い、まちのイメージの形成、賑わいの創出に成果をあげました。県内でも佐伯市や日田市のまちづくりに関わっています。

「まちで何が起きているのかー空き店舗の現状と解消・活用ー」と題して講演。各地の取り組み紹介、商店街の賑わい創出や新規開業を促す環境づくりについて説明しました。

パネルディスカッションは、大分県企画振興部長 佐藤健、豊後高田市 商業者 清末浩一さん、テレビリポーター 岩崎朋美さん参加により、「まちの賑わいとは？」と題しておこなわれました。

当日の講演資料は、まち班のHP掲載予定。

講師、コーディネーターとお世話になりました  
原田 弘子 さん



おはなし好き？  
清末 浩一 さん



パネルディスカッションの様相  
大分文化会館にて



司会、パネリストとして大活躍  
岩崎 朋美 さん



## まちづくり現地研修会（熊本県山鹿市）

こちらは、2月24日におこなわれた、まちづくり現地研修会についてです。

研修参加者は29名、研修先は熊本県山鹿市。豊前街道は、熊本から、植木、山鹿、南関を経て小倉を結ぶ参勤交代道です。山鹿は、この道の第一の宿場町として栄えました。山鹿市を代表する伝統的建造物は、豊前街道沿いにあり、貴重な歴史資源を活用して、「まちなみ整備事業」に取り組むなど景観まちづくりを進めています。今月11日には、歴史的景観を生かす町並みづくりを国が支援する「歴史まちづくり法」に基づく山鹿市の計画が、九州の市町村で初めて、認定を受けました。

山鹿市役所では、山鹿市都市計画課の方より山鹿の「歴史を活かしたまちづくり」の取り組み状況について説明を受けました。

現地視察は、豊前街道沿いの2箇所。

1箇所目は、八千代座です。

明治43（1910）年、旦那衆と呼ばれていた山鹿の実業家たちによって建てられた芝居小屋です。江戸時代の様式の中にドイツ製のレールを用いた廻り舞台などを備えた造りで、今でもなお、歌舞伎や郷土芸能などの催しに利用されています。国の重要文化財（昭和63年12月指定）であり、公演日以外は、館内の見学が可能です。八千代座の斜め向かいには、八千代座管理資料館「夢小蔵」があります。こちらは、八千代座より古く、明治20（1887）年に洋品店の蔵として建てられた白壁土蔵造りの建物を再利用して資料館です。八千代座の概要や歴史を伝えるビデオ映像、貴重な資料をみることができます。

2箇所目は、豊前街道惣門地区。

菊池川流域沿いの下町惣門は、江戸時代、米の集散地として栄えたそうです。現在も当時のままの古い町並みが残り、老舗の味噌蔵、酒蔵、米蔵が軒を連ねています。ここでは、前述の味噌蔵、酒蔵、米蔵などを、地元商店街の人々がユーモアを交えて案内してくれるウォーキングツアー、「米米惣門ツアー」を行っています。歴史的な建物の見学やせんべい作りなどを通じ、山鹿の歴史と文化にふれることができます。機会があれば、みなさんも参加してみてください。



八千代座（国指定重要文化財）



山鹿市役所にて



「米米惣門ツアー」中

### <編集後記>

今年度の発行は、これにて終了。4月から新年度の始まりです。まちづくり3人衆（津末、浅井、辰本）の運命は、次号にて。また、まち班のHPでも、まちづくり情報を発信していきますので、ぜひご覧ください。

↓まち班のHPへアクセス↓

大分県 まちづくり推進班

検索